

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	生活環境課	主管課長名	生活環境課 郡司 純夫
403	施策名	交通安全対策の推進	関係課	建設課、学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	交通安全事故にあわない、 起こさない	・市民、市内の道路利用者(車両運転者・歩行者) ・市内道路	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952	
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,444	42,000		
②市内道路延長(国道、県道、市道)			km	見込値			1,627	1,634	1,635	1,636	1,637	1,638		
				実績値	1,627	1,627	1,626	1,626	1,621	1,620	1,619	1,624		
施策の意図			成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
交通安全事故にあわない、 起こさない			①市内の交通事故発生件数(人身)	件	目標値			178	169	160	152	145	137	
	実績値	197			187	148	150	131	130	126	134			
	②市内の交通事故死亡者数	人		目標値			0	0	0	0	0	0		
				実績値	1	7	1	4	3	4	2	3		
	③市内の交通事故負傷者数	人		目標値			235	223	212	201	191	182		
				実績値	266	247	202	198	181	184	151	179		
成果指標設定の考え方		○交通事故に遭わず、起きなければ、①交通事故発生件数、②③交通事故による死傷者数は減少すると考えた。												
成果指標の把握方法と算定式等		○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○市内の交通事故件数等は桜川警察署資料から												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○事故にあわない、起こさないために、交通ルールを守る。(運転者及び歩行者等) ○地域の自主的な取り組みにより、交通安全意識を高める。 ○酒を飲んだら絶対に車に乗らない。酒を飲んだら乗らせないを徹底する。 ○交通安全母の会、交通安全協会、安全運転管理者協議会等、各種団体において交通安全運動を推進する。	○交通安全施設の整備を図るとともに、警察署や学校、地域の関係団体と連携し、市民の交通安全意識の高揚に努める。 ○交通安全施設(信号機、横断歩道、カーブミラー、ガードレール)の整備を図る。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○ここ数年、通学路の安全整備が懸案事項となっており、歩道・車道(自転車・自動車)の分離がもめられております。先の道路交通法の一部改正により、自転車利用者に対する講習が新設され、14歳以上の利用者が対象となります。 ○13歳未満の子どもと70歳以上のおとしりの自転車走行については歩道を通ることが認められています。	○歩道の設置について、市民(青少年育成桜川市民会議)から要望が出ている。 ○警察からは小学生の自転車乗車時のヘルメット着用を要請されている。(H25実施済み) ○交通安全施設(信号機、横断歩道、カーブミラー、ガードレール)の設置の要望が多い。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①交通安全意識の向上	市民、市内の道路利用者	交通事故にあわない、おこさない	事故発生件数(人身)	実績値	187	148	150	131	130	126	134
			件								
②交通安全施設等の整備	市内の道路	危険箇所を解消する	事故発生件数(物損)	実績値	733	728	801	753	710	777	758
			件								
			整備箇所数	実績値	79	111	117	88	63	47	32
			件								
				実績値							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

施策のコスト	項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度実績
	①本施策を構成する事務事業の数	件	8	8	8
②施策事業費(一般財源以外)	千円	4,185	4,736	5,177	
③施策事業費(一般財源)	千円	6,792	4,696	9,525	
④施策事業費の計(②+③)	千円	10,977	9,432	14,702	
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	7,876	7,294	8,772	
⑥計(④+⑤)	千円	18,853	16,726	23,474	

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
	事務事業		交通安全指導事業
事務事業		交通安全施設整備事業	H27貢献度上位

施策番号	403	施策名	交通安全対策の推進	主管課	生活環境課
------	-----	-----	-----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・市内の交通事故(人身事故)発生件数は、25年131件、26年130件、27年126件と減少傾向となっていたが、28年は134件と増えてしまった。その中で、高齢者の関係する交通事故は、25年は35件、26年は47件、27年は49件、28年は59件と増えている状況である。</p> <p>・交通事故負傷者数は、21年の266人からみると、かなり減少はしてきているが、26年は184人、27年は151人と減少傾向だったものの、28年は179人と増加してしまった。</p> <p>・交通死亡件数は、28年で3件発生し、前年よりもさらに1件増加した。28年死亡件数3件のうち高齢者の死亡事故は1件で前年より1件減少したが負傷者数が45人と前年よりも11人増加となった。</p> <p>・市としては交通安全施設の整備や交通安全教室等を開催している。警察署では取り締まりの強化、交通安全団体では交通安全のキャンペーンや立哨活動による交通安全への意識啓発事業に取り組んでいるが、高齢者の事故が増加傾向なことが大きな課題である。</p> <p>・交通安全施設の設置は、28年度は市内全域で区画線7ヶ所・ガードレール4ヶ所・標識設置4基・カーブミラー設置12基・反射板設置2ヶ所・転落防止柵3ヶ所の整備を行った。</p>		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①市内の交通事故(人身事故)発生件数は、28年度目標137件に対し、134件と若干上回った。</p> <p>②市内の交通事故死者数は、28年度目標0に対し3人(そのうち高齢者が1人)でとなってしまう。発生場所は、岩瀬地区と真壁地区で、バイクとの衝突事故が1件と追突事故、出合頭の事故がそれぞれ1件発生した。</p> <p>③市内の交通事故負傷者数は、28年度の目標値182人に対し、179人と発生件数同様上回った。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・交通事故件数は、県内で10,455件発生しており前年より1,158件減少している。そのうち桜川市は134件(27位)であり、結城市180件(18位)、笠間市が245件(14位)、筑西市は285件(10位)となっている。また、交通事故死者数は、県内で146人となっており前年より10人増加している。そのうち桜川市は3人(18位)であり、結城市4人(15位)、笠間市が5人(11位)、筑西市は8人(3位)となっており、国道50号で結ばれる近隣の自治体の中では、よい数値である。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・桜川市の現状として、JR水戸線およびタクシー・デマンドタクシー、桜川市と筑波山口を結ぶ試験運用バス以外の公共交通機関がないため、自家用車を使用しなければ生活が成り立たないというライフスタイルから、市民の交通安全対策に対する期待水準は高いと思われる。</p> <p>・総合計画(後期)策定時におけるアンケート調査(23年3月)から、この施策は優先度も満足度も平均より高く、重点維持項目にある。</p>		

7. 総合計画後期基本計画(H24~28)の振り返り

区分	これまでの取組成果
施策全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故から市民の尊い命を守るため、交通安全施設の整備や安全な道路環境の形成に努めるほか、市民一人ひとりの交通安全に対する意識の啓発に努めました。</li> <li>・幼児、小中学校の交通安全教室を実施した。</li> <li>・警察署や交通安全団体と連携し、交通安全のキャンペーンや立哨活動を実施し、交通安全への意識啓発に取り組んだ。</li> <li>・通学路における危険個所の把握とともに、重大事故を未然に防ぐための危険個所の解消や交通安全施設の整備を図った。</li> </ul>
基本事業	<p>①交通安全意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故防止のため広報活動や街頭キャンペーンを実施して交通ルール・マナーの向上など交通安全の意識啓発を行った。</li> <li>・子どもや高齢者の交通安全知識の向上のため、交通安全教室を実施した。</li> <li>・高齢者の運転免許自主返納に対して支援した。</li> <li>・反射材着用促進に努めた。</li> </ul>
	<p>②交通安全施設等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路における危険個所の把握とともに、重大事故を未然に防ぐための危険個所の解消や交通安全施設の整備を図った。</li> </ul>